



～お葬儀屋さんのひとりごと～

最近の葬儀トレンド

最近では、高齢化社会という環境の変化に伴い、直葬（火葬式）や家族葬などという従来のお葬式にはなかった葬儀形式をご希望されるケースも増えてまいりました。ただ、このような葬儀をされた場合、『なぜ知らせてくれなかった？』の苦情が挙がってくるなど、様々な問題が含まれていることも事実です。良い面と悪い面を十分にご理解いただいた上で、直葬（火葬式）・家族葬をお選びになることをお勧めいたします。

直葬（火葬式）

ご遺体をご自宅や安置所などで24時間保管した後、直接火葬場に移し荼毘に付します。直葬（火葬式）では、基本的に葬儀・告別式や読経などの宗教的な儀式を行いません。

家族葬

家族葬は、ご家族・ご親族そして故人とごく親しかった方々のみが集まり、故人と最後のお別れをする小規模な葬儀形式です。日常にお付き合いの少なかったご親戚や友人・知人、ご関係の会社・団体などには葬儀・告別式のご案内はいたしません。

家族葬の良い面としては、故人とのお別れの時間を十分にとっていただくことが挙げられます。お身内の方々だけの内輪のお集まりのため、一般の参列者への対応や気遣いが必要ありません。そのため、特に長期間の看病などでお疲れのご家族の場合は、精神的・肉体的なご負担が少なく済みます。また、参列者の人数が少ない分、供養品や食事の数などが限られるため、葬儀費用の軽減にもつながります。

しかしながら、ご葬儀の後に訃報を知った方々への対応が、とても大変なこととなる場合があります。葬儀の連絡を行わなかった遠縁のご親戚からの苦言や、後から訃報を知った友人・知人の方々がそれぞれご自宅へお参りに来られるという状況も考えられます。

また、ご遺族が家族葬を予定していても、訃報を知った関係者が大勢お葬式に参列される場合もあります。会場の座席が不足するなど予想外の対応に急遽奔走することとなり、参列者に対して失礼に当たることが起きてしまう可能性もあります。

故人のご遺志を尊重しながらも直葬（火葬式）や家族葬の良い面・悪い面をよくご検討されました上で、どのようなお葬式を執り行うか慎重にお決めください。

葬にまつわる体験談集

■ どこまで連絡すべきか [男性 26歳]

この5月に、85歳の祖父が亡くなった。葬儀の際、どこの範囲（友人、親類、ご近所など）まで呼ぶか、が問題になった。祖母はそんな状態でなかったのか、父が連絡を一手に仕切った。

しかし、ここからが問題であった。私や他の家の家族、叔父母あたりまで、知っているところはまだしも、血縁でもここはどうしようとか、古くから付き合いのあるところはどうかと相当苦心した様子であった。それに時間も限られてしまうので「まあ、あそこに連絡しとけばあとは派生的に行くだろう」と考えてしまったのではないだろうか。式中、式後になって、改めて父や叔父達と考えてみた結果、××さん所は来てない、とか〇〇さんのところは連絡いってるのか？ というのがいくつか出てくる始末。父が一言「どこに連絡するか教えてください」と、こぼした。私の家の場合は父の兄弟が7人と多く、祖父も友人が多岐にわたっていたことが事を一層複雑化させたのである。

やはり生前中から、年賀状や住所録等から親しい友人やちょっと遠い縁者、特別に呼んで欲しい人、逆に知らせて欲しくない人のことをリストアップしておくが一番良いのである。もっともそれをあまりに性急に行なうと、お前は私を死なせたいのか、となってしまうのでご注意を！

